

## 事例 25 ドローンによるシカ防護柵の点検

(四国森林管理局)



- 高知県四万十市（しまんとし）大藪山（おおやぶやま）国有林
- 飛行ルートを実操縦アプリに取り込んだ様子

- 実際にドローンで確認した映像

四国森林管理局では、シカ防護柵の点検業務の負担を軽減するため、ドローンの活用を進めています。

従来、防護柵については、倒木や落石等により損傷していないか、徒歩により点検を行っていたところですが、GISを活用してドローンの飛行ルートを作成し、自動操縦アプリに取り込むことで、防護柵の周辺を自動飛行させ、映像を介して防護柵を点検することが可能となりました。これにより、全長 1,000m の防護柵を点検する場合、これまで徒歩で 1 時間程度かかっていたところ、ドローンを活用した場合には 10 分程度でできるようになりました。また、倒木等による損傷が確認された場合、補修に必要な資材等が映像を介して具体的に把握でき、効率的な補修が可能となります。

令和 4 年度には、ドローンを自動で飛行させるためのマニュアルを作成するとともに説明会や体験飛行を実施し、各森林管理署等への取組の拡大を図りました。